

# プロジェクト管理の手法(Ⅱ)

— 渡米システムズ・アナリシス研修団テキスト —

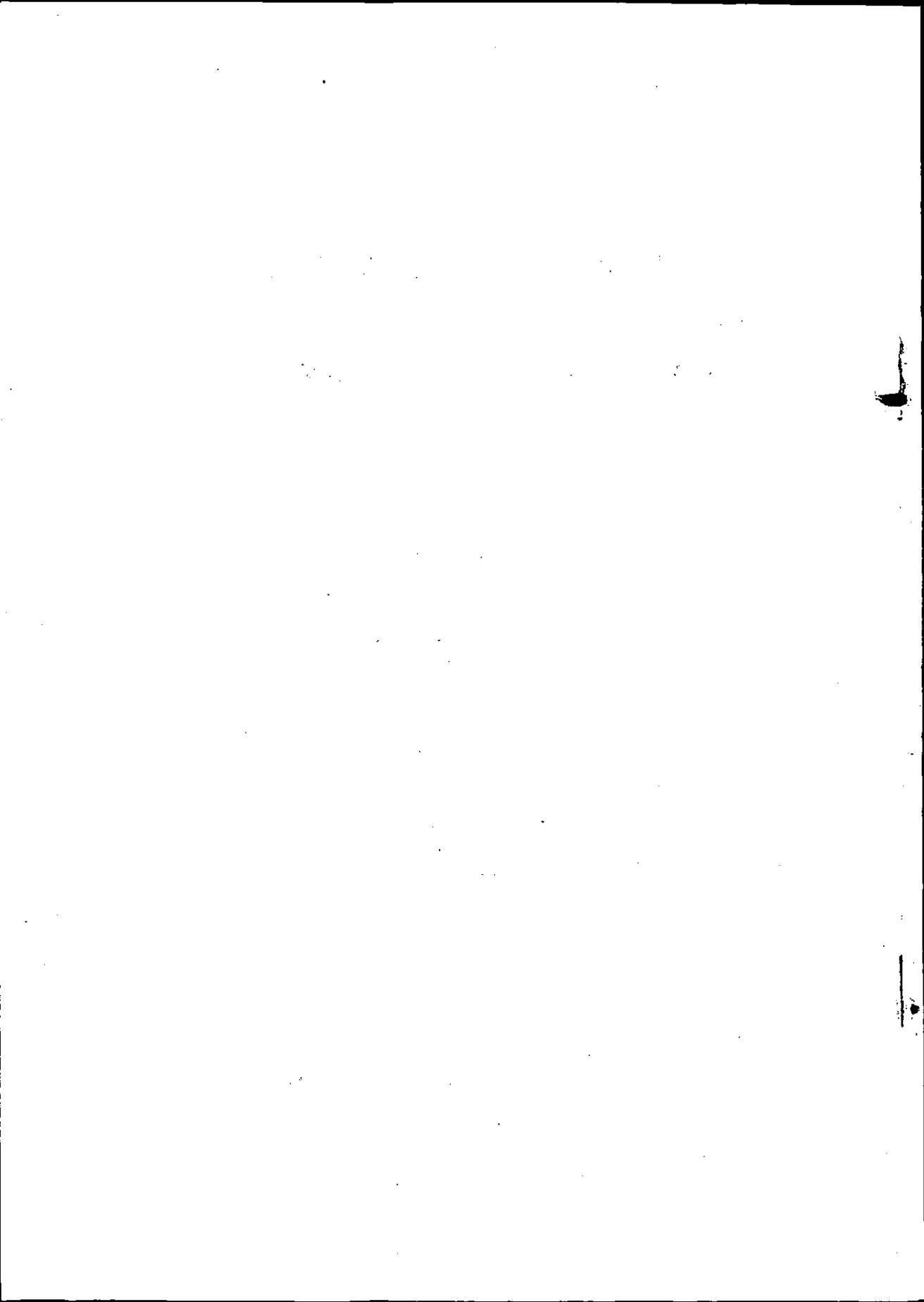
(ケース・スタディ)

昭和46年6月

資  
料  
室

財団法人 日本経営情報開発協会





## 序

このケース・スタディの教材は、実際のプロジェクトのファイルから取ってきたものであるけれども、ここでの事象は、すべての点からみて、過去又は現在のどの活動状況とも似せようとしているのではない。ケース・スタディの内容は経営の原理をプログラミングのプロジェクトに当てはめる上での経験を提供するために選ばれた。そして全ての事例と補足的教材は、このコースの目的にマッチするように構成された。さらに、このコース又はケース・スタディは適用領域の完全な、決定的な処理を提供することを意図するものでもない。

## I アメリカ・コンシューマー・サービス会社について

### A 沿革

アメリカ・コンシューマー・サービス会社(ACS社)は1946年、質の高い小売組織として設立された。戦時中衣類製造業として多額の金を蓄積した5人の兄弟は、ボストン、ニューヨーク、フィラデルフィアに、増加しつつある中産階級へ・特選・高級商品を販売するために小売店を開設した。1949年までにACS社は製造設備を売り払い、東海岸と西海岸に店舗を拡張し、25店舗までになった。1952年、ACS社は米国のあらゆる主要都市に市舗を持った。しかしながら、1967年までにかなりの数の吸収、合併(ACS社は2つの小規模な小売チェーンを合併し、いくつかのディスカウント・ストアを吸収し、又ジョージア州にある繊維製造工場を買収した。)によって特色づけられる15年間の急激な成長の後、ACS社は50州に合計794店舗を所有することになった。現在の拡張率は今後5年間は続くと予想される——すなわち、ACS社は米国に1年間におよそ10の新店舗を開設しつつあるということになる。ヨーロッパの子会社の吸収を現在考慮中であり、自動車リースのチェーンの買収といったような、多くの他の新しい投機が目下行なわれている。ACS社の経営者は現時点を現行の運営手続きの統合と改善の時期とみなしている。経営者は次のように述べた。「今後の拡張に取りかかる前に、現在の組織の“完全な集中管理”を果たしている、ということが保障されねばならない。」「例えそれが“より多くのコンピュータや関連機器の導入を意味するものであっても、このような管理を達成するのに必要なあらゆるステップをとる”にやぶさかでない。」

### B データ処理活動

1949年、ACS社は在庫記録を維持するのに役立ついくつかの電子

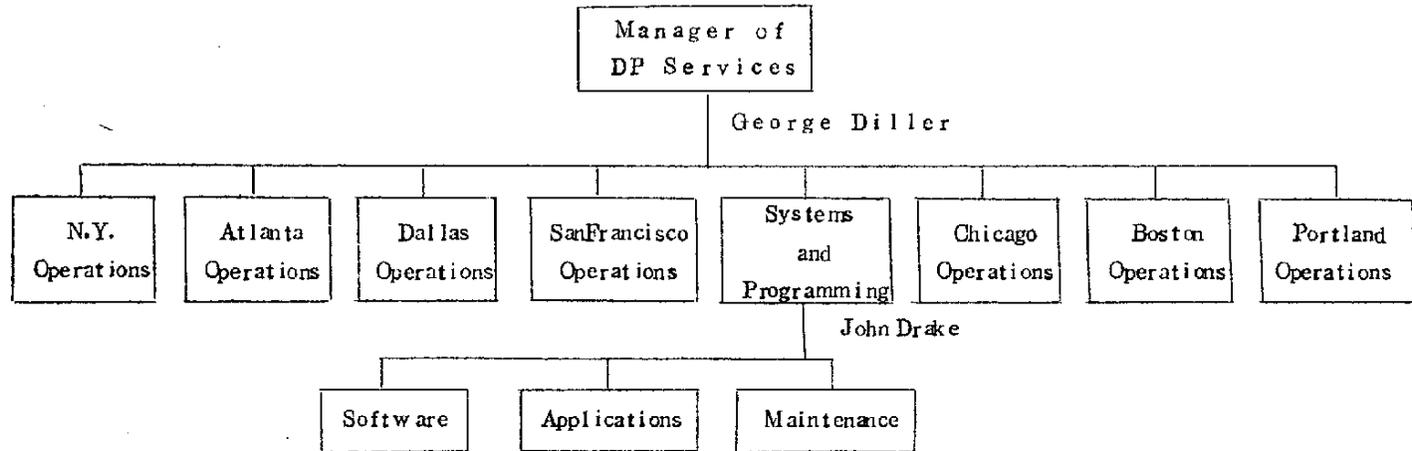
会計機を賃借した。又EAMの装置が得意先の会計レコード・キーピングのために使われた。1952年までに、全ての主要地方事務所がEAMの装置を所有した。そしていくつかのより小規模な地方事務所はサービス・ビューローを利用していた。1961年ACS社が当時財産管理を受けていた会社(Halaby and Company)から小グループの小売店を吸収した際、ACS社は当社の最初のコンピュータ——小規模な第2世代の商業用コンピュータ——を導入した。1962年の始め、ニューヨークに小規模のデータ処理スタッフが公式に組織され、そして数ヶ月以内にシカゴ、アトランタ、ダラス、サンフランシスコに4つの地方コンピューティング・センターが設立された。

各地方コンピューティング・センターはニューヨークでの最初の導入と全く同一の機種構成を保持していた。最初のシステムの殆んど全てがプログラミング請負機関によって完成された。その機関の活動はACS社のDPサービス部により監督されていたし、その機関は現在でも全てのデータ処理システムの開発、設置、保守の責任を負っている。しかしながら、データ処理サービス・スタッフは現在、小売店の諸活動にだけ参画している。——すなわちこの時点ではディスカウント業務とか製造のための作業はしていない。

1966年の初めに、トップ・マネジメントは第3世代のコンピュータを導入するという意思決定をした。1966年の第3四半期に、ニューヨークに大規模なコンピュータが導入され、3ヶ月以内にさらに6セットのコンピュータが導入された。そのうち4セットは4つの現存の地方コンピュータ・センターに、2セットはボストンと、ポートランドの新センターに導入された。これらのコンピュータは第2世代のハードウェアと置換されたけれども、ある不確定の期間、第2世代の装置と平行して運用するということが計画された。6つの地方に導入されたものは、何らのコミュニケ

ーション装置によっても、お互いにも又はニューヨークとも連結されていない。各地方センターは、経営者が現在の状態に対して経済的に実現可能な代替案が存在するということを確認するまでは、それらの地方のサービス・ビューローとして機能し続けるだろう。ACS社が彼等の新しいコンピュータを発注した時、その発注は、もともと製造会社の要員により実施され、ACS社の経営者に文書で提出されたシステム・サーベイに基づいてなされた。サーベイチームの主要メンバーはDPサービス部マネージャー、システム・プログラミング部マネージャーおよび2人のプログラマーであった。システム・プログラミング部マネージャー以外の全員が、ACS社の最初のコンピュータと一諸に入手したスタッフの中核であった。現在のデータ処理サービス部のスタッフは表1.の組織図に示されている。その図に含まれているのは要員名とその上に附記してある要員の作業の記述である。

表 1 : A C S 社データ処理サービス部組織図



Frank Cetrone

Fred Dess

Herb Lacy

Alexander O' Malley

Tom Tracy

Barbara Lee

Tony Malone

Billie Willis

Alice Kent

Franklin Sussman

Lynn Morrow

Clive Richards

## 要員および業務の特徴

### データ処理サービス部長 — George Diller

#### 業務の特徴

下位管理者を管理するか、もしくは直接監督することによって、システム設計、プログラミング、運営を含む、全てのデータ処理サービス部の活動を計画し、組織し、管理すること。人事および監理機能を果たすこと。直接的な監督又は進行報告によって彼の指導下にある全ての活動のコントロールを維持すること。データ処理サービス部の計画、プロジェクトの進行と業績および関連問題に関して社長に報告すること。協同目的をもつ諸活動の適切な相互関係を維持するために、必要に応じて、データ処理サービス・グループと他のACS社の諸部門間の調整者および連絡者として行動すること。監理方針と手続を守ることを保障するために下位管理者と協同作業すること。全てのデータ処理サービス諸活動にわたって、それらが合法的で、効果的で、有効な方法で達成されるように指導し、管理すること。

#### 略 歴

年 令： 37才

学 歴： 理学士、会計学専攻

職 歴： 1951～1953 米国陸軍

1953～1959 シアス、ローバック社 システム・アナリスト  
兼、プログラマー

1959～1961 ハラビ社 システム・プログラミング部長

1961～現在 ACS社 データ・処理サービス部長

## システム・プログラミング部長—John Drake

### 業務の特徴

EDPに関する新しい、修正されたシステムと手続きの確立と実施上、システムとプログラミング活動を計画し、組織し、管理する責任を負っている。システム分析、システム設計、プログラミング活動の全てに責任を負う。又、プロジェクトの選択と認定に関する勧告をする責任を負う。システムとプログラミングの問題に関して、他の諸部門と相談し、勧告をする。

### 略 歴

年 令： 33才

学 歴： 文学士 歴史専攻、文学修士 数学

職 歴： 1960～1963 ユニオンカーバイト

システム・アナリスト兼プログラマー

1963～1965 NASA システム・アナリス部門課長

1965～現在 ACS社 システム・プログラミング部長

## シニア・システム・アナリスト— Frank Cetrone

全般的な指令の下で、EDPシステムの使用による、ビジネス問題の論理的な説明書と、問題解決のための計画手続を公式に作成すること。自分の仕事に時間の大半を費すけれども、システム分析の最も高いレベルの全ての技術段階を担当する能力がある。低レベルに格付けされる作業に対する命令と指導書を準備すること。問題を明確化するために経営者およびユーザーと協議すること。コンピュータによる問題解決の論理手続を計画すること。現行システムの論理を明らかにし、必要に応じて論理と手続きを改正すること。システム・プログラミング部長に報告すること。

### 略 歴

年 令： 29才

学 歴： 理学士 RPI 電気技術者

職 歴： 1959～1960 技術協会プログラマー

1960～1961 ハラビー社 アプリケーション・プログラマー

1961～現在 ACS社 ソフト・ウェア・コンサルタント

Frank CetroneはDPサービス部における主要技術者の1人であった。彼はコンパイラーとスーパーバイザー・プログラムの専門家になった。彼はフォートランのプログラマーとして経歴を開始し、ノース・アメリカン・アプリケーションと契約している企業のための軌道技術の数学モデルの構成に関する作業を行っていた。高度の言語のコーディングは非常に退屈なものであり、Frankは夜間のフォートラン・コンパイラーの勉強を始めた。数ヶ月以内に彼はコンパイラーのための1つのレポート・プロセサーを書き、テストしたが、彼の上司は興味をもたなかった。そこで彼は小規模な小売組織であるハラビー社に雇われ、先ずアプリケーション・プログラマーとして働い

た。システム・アナリストとしての短期間の訓練ののち、Frank は在庫管理システムの開発と導入のチーム・リーダーとなった。この頃、ハラビー社はA C S社に吸収され、Frankは更に3年間、システム・アナリスト兼アプリケーション・プログラマーとして働き、主にソフト・ウェアとプログラミングの分野で責任を持っていた。

彼のコンパイラと、ソフト・ウェアの技法に関する関心が増し、この理由のため1965年、彼はソフト・ウェアの問題に殆んど専念することが許された。Frankは急速に昇進し、現在A C S社で大変責任のある地位に居る。彼はA C S社を給与事例に対しては完全なCOBOLの環境に、いくつかの他の計画事例に対してはアッセン・ブリーの環境に移したいと思っている。しかしながら、彼はこれは現在可能となっていないとみなしており、そこで彼は出来るだけ早くA C S社が張り合い状態から脱却するのを助けるのに努力を集中している。

## シニア・システム・アナリスト — Fred Dess

### システム部次長

一般的指令の下で、経営問題の論理的説明書とEDPを使用し、又使用しないで問題を解決する計画手続きを公式に作成すること。自分の仕事に時間の大半を費すけれども、システム分析の最も高度のレベルの全ての技術段階を担当する能力がある。低レベルに格付けされる作業に対する命令と指導書を準備すること。コンピュータによる問題解決の論理手続きを計画すること。現行システムの論理を分析し、必要に応じて論理と手続きを修正すること。システム・プログラミング部長に報告すること。

### 略 歴

年 令： 33才

学 歴： 高校卒、大学の3年在学中（理学士取得予定、会計学専攻）

職 歴： 1955～1959 米国陸軍 DP技術者兼プログラマー

1959～1961 ハラビー社 アプリケーション・プログラマー

1961～現在 ACS社 主任アプリケーション・ア

ナリスト兼プログラマー

Fred Dess はDPサービス部長George Dillerと一諸にハラビー社からACS社に入社してきた。ハラビー社において、Fred は顧客会計のレコード キーピングシステムにおける主要手続きの設計と実施の責任をもっていた。彼はシカゴ、アトランタ、ダラス、サンフランシスコのデータ・センターのために、同じようなシステムの導入に従事した。1965年の初め、レポート・プログラム・ゼネレーターと、そのACS社のための伝票発行システムと問い合わせシステムに対する適用の可能性を含む、特別プロジェクトに任命された。Fred は第三世代の装置への変換のための提案チームの主

要メンバーの1人であった。彼は現行の適用事例について第三世代の装置から第三世代の装置への切り換えについての効果を評価する責任者に任命された。又、彼は第三世代の装置とその能力、コボル、アッセンブリー言語のプログラミング、オペレーションシステムのコンセプト・ダイレクト・アクセスの記憶装置のテクニックに自から親しむために、教育計画に従事した。

又、Fredは第三世代の装置とその適用事例についてのAOS社のDPマネージャー、システム・アナリスト、プログラマー、オペレーターを訓練する教育計画を開発する責任をもつことになる。

## システム・アナリストA— Alexander O'Malley

一般的監督の下で、提案システムの仕様書をEDP中心のシステムにするか、非EDP中心のシステムにするかを確定すること。ある程度監督される必要はあるけれども、システム開発の大手の段階に彼自身担当する能力がある。データを収集するために組織の要員と談合すること、およびデータ解析を実施すること。システム設計に参画し、提案システムが効率的、効果的にシステムの目的にマッチしうるように設計と装置に対する修正をすることもありうる。又、問題の明確化に参画したり又は全体的な責任をもつこともありうる。業務計画の仕様書を詳細に述べる適切なドキュメンテーションを作成すること。システム・プログラミング部長に報告すること。

### 略 歴

年 令： 39才

学 歴： 高校卒

職 歴： 1947～1949 F.Wシュワルツ社 タブ・オペレーター実習生  
中級タブ・オペレーター

1949～現在 タブ・オペレーター、プログラマー、システム・アナリスト

Alexander O'Malley はニュージャージー州の大規模な食料品チェーン (F.W.シュワルツ社) に2年間従事したのち、ACS社に連れてこられた。彼はタブ・オペレーターの中心人物であり、第二世代の装置と絶えず接触することにより、あるメンテナンスプログラムを作成出来る程になった。彼はフォーム・デザインと管理に興味をもつようになり、1965年、その分野での専門家として任務を与えられた。彼は旧型のACS社のコンピュータに充分慣れ親しんでいたけれども、現時点では第三世代の装置についての彼の知

識は限界がある。彼は新型の装置の“プログラミング入門”を受け、そして技術の時代遅れにならないようにプログラミング部門に戻りたいという意志を表明した。彼は現在、製造会社のシステム研究を調査しており、また、COBOLの自習コースを受けている。彼は将来のD Pサービスグループの活動において重要な役割を演ずるものと期待されている。

## システム・アナリスト B — Barbara Lee

一般的な監督の下で、提案されたシステムのために仕様書の作成に参画し EDP オリエンテッドにするかどうか決定すること。かなり明確になったシステム開発段階を担当する能力がある。しかし、彼の大部分の活動には監督を受ける必要がある。データ収集のために組織要員と談合すること。データ解析においてはより上級のアナリストと一諸に参画すること。システムの実施に関しては責任あるアナリストと談合すること。業務計画の仕様書をより詳細に述べる予備的なドキュメンテーションを作成すること。システム・プログラミング部長に報告すること。

### 略 歴

年 令： 24才

学 歴： 文学士 テキサス大学歴史学専攻

職 歴： 1966~1968 テキサス・ベル・テレフォン社 プログラマー兼システム・アナリスト

Barbara Lee は新規雇用者である。彼女はテキサスのベル・テレフォン社で、2年間・第三世代・装置の経験をした後、AOS社に引き抜かれた。彼女はアッセンブリー言語にも COBOL 言語にも詳しいし、システム設計の最少限度の経験も持っている。彼女のシステムおよびプログラミングの経験は過去の彼女の業績に現われている。彼女はオースチンとテキサスの近くの事務所の主要な給与システムを設計し、プログラミングを行なう責任をもっているチームの重要なメンバーであった。そのシステムがシステムテストの段階になったとき、内部の政治的な性質の問題に直面し、全プロジェクトが当分の間棚上げされることになった。それで Barbara は新しい仕事を捜す必要があり、彼女は転職したがっていたので、殆んどすぐに雇用されることになった。

## シニア プログラマー — Herb Lacy

### プログラミング係長

一般的な指示の下で、EDP装置を使って経営問題を解決するためのフローチャートを公式化すること。自分の仕事に時間の大半を費すけれども、全てのプログラミングの段階の最も高度のレベルを担当する能力がある。より低レベルに格付けされる作業に対する命令と指導書を準備すること。システム・アナリスト、システム・デザイナーと談合すること、プログラムのコード化が出来るようにコンピュータ・システムを分析し、定義すること。テスト・データを作成することによってプログラムのロジックを検証すること。および、コンピュータ・オペレーションの事故原因を確認するのを援助すること。システム・アナリストによって略述された問題を分析し、プログラミングの実現可能性を確認すること。

### 略 歴

年 令： 37才

学 歴： アメリカ学士院特別会員、経営学修士、サン・ジョセ・ジュニア大卒

職 歴： 1955～1966 マーチン・事務家具 EAM・スーパーバイザー・プログラマー兼・プログラム課長

Herb Lacyは カルフォルニアとニューヨークに事務所があった事務家具製造会社から引き抜かれた。Herb は元々サンジョセのマーティン工場で働くべく、高校を出て直ぐ雇われた。彼はEAM実習生として出発し、年が立つにつれて、プログラミングの分野に進んだ。彼はマーティンのオーダー・エントリー・システム、すなわちアウト・コーダーの作業をする唯一の責任者になった。彼はその持ち駒が入門コースに限られているけれども、COBOL

および第三世代の装置に精通している。マーティンがHerb および彼の家族をニューヨークに配転した1年後の1966年、彼はプログラミング係長として配属された。しかし約束されていた“新しい肩書”は全く実際上実現されず、Herb はAOS社に参加することになった。

## プログラマーA—— Tom Tracy

一般的監督の下で、EDPのプログラムを開発するために詳細にコンピュータ・システムを分析し、明確化すること、プログラミングの殆んど全ての段階で彼自身が担当する能力がある。活動のバランスをとるために一般的な指示を必要とする。全ての明確なシステム仕様書を詳細に分析し、全てのフローチャートを開発すること。プログラムをコード化し、テストし、デバッグすること。必要に応じてプログラムを修正し、保守を行なうこと、コンピュータ・プログラムが事前に設定されている場合、全コンピュータ・プログラムに使われている全ての手続きを記録しておくこと。より低レベルに格付けされるものに対する技術的指導書を与えることもありうる。

### 略 歴

年 令： 25才

学 歴： 理学士 数学専攻 クイーン大学卒

職 歴： 1965～1967 ハニイウエル社 プログラム実習生兼  
プログラマー

1967～1968 グラスーキャンプ社 プログラマー

1968～現在 ACS社 プログラマー

Tom Tracyは大学卒業直後ハニイウエル社に採用された。イージーコーダーとCOBOLの両方でもって、給与および在庫管理のアプリケーションに従事した。在庫のアプリケーションと第三世代の彼の知識が食品製造のグラスーキャンプ社に採用された際、彼を著じるしく昇進させ、昇給させた。しかしながら彼は職種の成長と発展の機会がなく不満であった。彼は、これらの機会を見いだすのを期待してACS社に入社し、大半の時間を学校で過し他の製造会社のハードウェアとアッセンブリー言語を学んでいた。彼の給与のアプリケーションの知識はACS社に非常に価値があると期待されている。

## プログラマーB— Tony Malone

一般的監督の下で、コンピュータ・プログラムの仕様書の検討と分析上の援助をすること。プログラムをコード化したり、デバッグしたり、テストしたりすること等々、一般的指示を受けてのみプログラミングの幾つかの段階で担当する能力がある。しかし別の段階ではある指示とか、指導を要する。全てのレベルのフローチャートの作成を援助し、ある場合には自から完成すること。プログラミング・システムの全ての部分のドキュメンテーションを援助すること。

### 略 歴

年 令： 22才

学 歴： アメリカ学士院特別会員 データ処理専攻、ブロンクス・  
コミュニティ大学卒

職 歴： 1966～ 現在 ACS社 プログラマー

Tony Maloneは大学卒業後Cクラスプログラマーとして採用された。彼は丸2年間データ処理に従事し、合同教育計画に参画し、そしてコンピュータ・オペレーター兼プログラマー実習生として従事した。彼のACS社での経験は、顧客レコード・キーピング・システムの保守の部分に限られてきた。しかしながら彼は最近メーカーのCOBOLコースを修了し、昇進した。彼はCOBOLについても第三世代の装置についても殆んど無経験であったが、しかし、彼の保守の任務の中で立派なプログラミングと分析能力があることを示した。

## プログラマーB— Billie Willis

一般的監督の下で、コンピュータ・プログラムの仕様書の検討と分析を援助すること、プログラムをコード化し、デバッグし、テストする等々、一般的指示を受けてのみ、プログラミングのいくつかの段階で担当する能力がある。しかし別の段階ではある指示とか指導を要する。全てのレベルのフローチャートの作成を援助し、ある場合には自から完成すること。プログラミング・システムの全ての部分のドキュメンテーションを援助すること。

### 略 歴

年 令： 27才

学 歴： 高校卒

職 歴： 1959～1961 ACS社 セールス・ガール

1961～1965 ACS社 キー・パンチ・オペレーターおよびスーパーバイザー

1965～現在 ACS社 プログラマー

2年間セールスガールとして従事した後、Billie Willisは1つの履歴としてデータ処理を研究することに決めた。彼女は暇を見てキー・パンチの学校に通い、1961年キー・パンチグループに配転された。1964年から1965年まで、彼女はニューヨークの交替性要員の監督者であったが、彼女は更にプログラミングにも関心をもった。彼女は再び学校に戻り、コンピュータ・プログラムの原理とCOBOLを勉強した。1965年以後、彼女はACS社の在庫／商品補給システムの保守に従事してきた。彼女の能力はこの作業説明の要求に合致する点以上にまで向上した。事実、彼女は殆んど10ヶ月前にBクラスのプログラマーになった。

## プログラマーC— Alice Kent

直接監督下で、細目のプログラム仕様書の分析と、プログラム命令の作成を援助すること。全ての作業を緊密な監督下で行なり。

### 略 歴

年 令： 22才

学 歴： 理学士 経済学専攻、ブルックリン大学卒

職 歴： 現在 ACS社 プログラマー

Alice Kent はプログラミングの講習会の優秀な卒業生であった。彼女はデータ処理（第三世代を含む）入門、アッセンブリー言語、COBOL 言語を含む3週間の集中講義を受講した。彼女はACS社で6ヶ月のメンテナンス・プログラミングの経験がある。

## プログラマーC — Franklin Sussman

直接監督下で、細目のプログラム仕様書の分析と、プログラム作成を援助すること。全ての作業を緊密な監督下で行なり。

### 略 歴

年 令： 22才

学 歴： 理学士 教育学専攻 ケント州立大学卒

職 歴： 1967～現在 ナショナル生命保険会社、プログラマー実習  
生

Franklin Sussmanはナショナル生命保険会社からプログラム訓練中に採用された。彼は保険業務は好まなかったし、小売の分野により興味があると述べた。彼は夏の間、オハイオ州のACS社のチェーンで働いた。彼はデータ処理（第三世代を含む）入門およびCOBOL言語のプログラムを含む6ヶ月の訓練プログラムを修了した。彼は、更に2ヶ月間、1つの固定給与システムにおける給与プログラムの保守を行ってきた。

## プログラマーC— Lynn Morrow

直接監督の下で、細目の仕様書の分析と、プログラム作成を援助すること。  
全ての作業を近密な監督の下で行う。

### 略 歴

年 令： 23才

学 歴： 理学士 経済学専攻 ブルックリン大学卒

職 歴： 現在 ACS社 プログラマー

Lynn Morrow と Alice Kent は大学および指導的なプログラム学校での同級生であった。彼等は両学校で同様に成績優秀であり、両者ともCOBOLに精通していた。Lynn は、過去6ヶ月間ACS社でプログラムのメンテナンスに従事してきた。

## プログラマーC — Clive Ritchards

直接監督の下で、細目の仕様書と、プログラム作成を援助すること。全ての作業を近密な監督の下で行なう。

### 略 歴

年 令： 41才

学 歴： 高校卒

職 歴： 1946～1966 米国海軍 電気技師

1966～1967 グローリア・リサイアティー エンサイクロピ  
ディア・セールスマン

1967～ 現在 ACS社 プログラマー

Clive Ritchards は Alice Kent と Lynn Morrow が卒業したプログラミングの講習会で3番目の優秀な卒業生であった。彼は最初の頃の卒業生であり、テストケースであった。ACS社は彼の成績に大変満足した。なぜなら、彼は顧客会計レコード・キーピング・システムのいくつかの部分を改良してきたからである。彼はOクラスのプログラマーであったが、彼の感じでは、近々昇進しそうである。

## Ⅱ 提案された給与システム

### A 説明

ACS社の全業務に対してコントロールを強化するという経営者の目的に応じて、データ処理サービス部は全ての小売店の従業員のためのセントラル・ペイロール・システムを開発し、導入することに同意した。もしこのプロジェクトが首尾よく実行されるならば、ACS社の経営者はニューヨークにある組織のあらゆる分野の全てのデータ処理活動を集中化する計画を押し進めることが出来る。

3ヶ月前 システム・プログラミング部長John Drakeの指示の下で3人のシステム・アナリスト(Cetrone, Dess およびO'Malley)が提案された給与のアプリケーションを研究し始めた。システムの全般的な目的は給与を処理するための一連の効率的な手続きを提供することである。この全般的な目的の範囲内で、システムが提供すべきものは次の通りである。

- 給与の機能を最大限に自動化すること。すなわち、機械の最大限の利用効率を達成するために、ペイロール・ランの回数を減らす等。
- 適当な市、郡、州、連邦政府の税の計算は勿論のこと、総計と差引計の計算を含む、全ての給与計算を行ない、全てのタックス・レポートを作成すること。
- その処理能力を7,200名の給与から、本社の大半とその関連企業の従業員の大半を処理するという最大15,000名の従業員分にはまで拡張を可能にすること。
- 給与に直接適用出来る又は給与と関連する、全てに役立つ条項を整理統合すること。
- 給与情報の機密を保持すること。
- 外部システムの情報処理を減らすために、コンピュータへの、特に変

更データの入力のための、マシン・リーダブルなインプットを最大に利用すること。

システム開発作業が始まった時、一連のデータ処理のスタンダードを開発するために1人のコンサルタントを残しておいた。このスタンダードはまたプロジェクト・マネジメントのためのスタンダードも含んでいた。これらは現在利用可能になっている。経営者の全てが熱心にスタンダードによる活動を支援し、スタンダードの実施の最初のプロジェクトとして、提案中のペイロール・システムを割り当てた。AOS社の経営者の言によれば、新しいスタンダードは次の事を意図している。

- 全てのデータ処理活動の計画とコントロールのための健全な基礎を提供すること。
- 全てのレベルの経営者と監督者間の速やかにして明瞭なコミュニケーションを促進すること。
- 現在の使用可能な資源の(情報を)ダイナミックに更新することを可能にしておくこと。

#### 1. システム概念

全てのペイロール・データ(変更とか、超過勤務時間といった)は給与部で検討され、コントロールされることになっており、詳細なトランザクションに対し自動チェックが出来るように機械処理が可能な形でデータ処理サービス部に送付される。

このデータを処理するデータ処理サービス部の責任は次の通りである。

- a インプットのディテール・トータルとコントロール・トータルを比較し、バランスを取り給与部に報告すること。
- b 提出されたデータの正当性を確認し、全ての無効帳票をはじき出すこと。
- c コンピュータで維持されている、適切なマスタ・ファイルを参照してインプット・データを編集すること。

d 全てのコンピュータが発見したエラーを、会計部門が各エラーの明白な理由づけをするための積極的行動をとれるような方法で区分すること。

e コンピュータで維持しているマスターファイルに送達された、全てのエラーの状況を含む、あらゆる変更を、発生部門に報告すること。

給与部とデータ処理サービス部は訂正を行い、マスタ・レコードを更新するため、エラーのない、インプット・ファイルがコンピュータに提供されるようになるまで、インプット・データのエラーの巡り返しを行う責任がある。

## 2. システムの要約

### a セミ・マンスリー処理

給与の変更の通知書は給与部で校訂され、金額のコントロール・トータルをつけて紙テープの様式に再タイプ又はパンチされる。タイプされた変更通知書は各小売点から送られてきたオリジナルの帳票と照合されるだろう。照合中に気づいた全てのエラーは機械処理に先き立って紙テープ上で訂正されるだろう。

それから紙テープはコンピュータで処理される。データが正しくパンチされているかどうかチェックされ、磁気テープに記録される。バッチ・バランス・トータルがとられ、バランスにない状況が報告される。全ての検証済みデータは磁気テープに記録される。エラーを記録したテープも又造られる。

次にその諸変更は、その変更が合法的でフォーマットやコーディングに発見しうるエラーを含まないということを検証するために、給与・マスター・ファイル、オフィス・ヘッダー・ファイル、地方税率表に照して処理される。

全ての変更が訂正された後、それらは給与マスターに入る。全てのロケーション変更、賃金の変更等が現行の支払金額をファイルに入

れる前に行なわれる。

超勤の支払記録が又給与部によって適切なコントロールを付けて紙テープに書き込まれる。データ処理運営部および本部給与部用のために、時間給従業員にも無効小切手にも同じ方法を行なう。

給与変更通知書について略述したものと類似したエラー訂正手続きを経るこれらの処理は流れる。

給与小切手と小切手控が作成された時点では、その目的のために使用される全てのインプット・ファイルはコンピュータ・プログラムおよび手作業におけるチェックがもはやこれ以上出来えないほど十分に校訂されているだろう。その時給与マスターファイルには最も新しい利用可能情報がもられているだろうし、スペシャルレポートを作成しうるのに役立つ立っているだろう。

b マンスリー処理

マンスリー・ベースで、ごく最近無効になったものも、他の相殺済みのものが給与マスターファイルに記入され、月末報告が作成されるだろう。無効のもの相殺済みのもの、支払い済みの小切手が、未払い小切手テープに照らして、小切手照合報告および小切手相殺記録を作成するために処理されるだろう。

c 四半期処理

この処理は給与マスターの帳じりが合っていることを検証し、941Aテープと他の四半期報告を作成する。

d 半期および年次処理

この処理は給与マスターの帳じりが合っていることを検証し、選択された報告を作成する。年度末において、W-2説明書と他の年度末報告が作成され、給与マスター・ファイルが新年度のために作成される。それと同時に寿命が満了したものは全て排除される。

### 3. 主要なシステムの性格

#### a マスター・ファイルの作成と統合

地域マスター支払テーブル、従業員の氏名および住所のマスター・ファイル、および全ての他の手作業およびコンピュータ化されたファイルに現存するデータは全て1つのファイルに統合されるだろう。

#### b 総計から純計の計算へ

新入社員および給与変更をする従業員のために、適用税率が選出され、全ての税額計算が行なわれる。このようにして純支払額がコンピュータにより作成されるようにする。

#### c 税計算および報告

各従業員のための州および地方税負担額が給与マスターのデータとディスク上の税表を参照してコンピュータ・プログラムによって確定される。連邦政府の源泉課税は直接計算法を使って計算される。FICAは各支払期間に計算され、年度制限に達すれば中止される。

#### d オフィスごとのサマリー

ペイロール・クリアランス作成に使われるこれらのサマリーは支払いデータから直接作成され、給与マスター・ファイルに付き合わされる。

#### e ヘッダー・ファイルの統合

ヘッダー・カード・デッキ（小切手ヘッダー、941Aヘッダー等）に現在使われている全てが、リ스팅する目的のために全てのプリント・プログラムに利用可能となるマスター・ディスク・ファイルに統合されるだろう。このマスター・ディスク・ファイルは、特定のプログラムが持つ必要に応じて更新されるだろう。

#### f 給与変更リスト

給与変更の完全なリストが、全てのマスター・ファイル修正の監査証跡を提供するためにセミ・マンスリーベースで作成されるだろう。

g オーバー・タイム・レートの計算

コンピュータ・プログラムが該当するオーバー・タイム・レートを  
選びだすから、インプット伝票に関しては、超勤時間だけが必要とな  
る。

4. システムのコントロール手続

このセクションで略述しているコントロール手続きは、次のことを保  
障するために設計される。

- a データ処理サービス部に提出される全ての給与処理は、コンピュ  
ータ・システムを通じて処理される。
- b コンピュータで維持されているファイルの金額トータルが、給与部  
に維持されているアカウント・コントロールと一致している。
- c 全ての給与変更が適切な監査証跡を通じてトレース出来る。

いくつかの基本的なコントロール・ルールが次のような諸目的を実現  
するために守らねばならない。

- a 給与部により行なわれる全ての給与の処理は、コンピュータ処理さ  
れる前に適切な金額又は他のフィールドごとにバッチ化され、加算さ  
れ、合計される。これらのあらかじめ確定された合計は機械処理可能  
なフォームにされ、一諸にコンピュータ処理される。
- b データ処理サービス部はあらかじめ確定された合計を処理細目と照  
合し、あらかじめ確定された合計、コンピュータによって加算された  
合計と、不一致の存在を示すメッセージを表わすプリント・アウトと  
を作成する。
- c そのシステムに使用される全ての磁気テープのファイルは、そのテ  
ープ・ファイル上の細目レコードが、そのファイルが読まれるごとに  
一致しているか、どうかを参照する金額とか時間の合計をつけた集計  
されたレコードを持っている。

給与マスター・ファイルのために、ファイルの最終データ・レコードとして27のサマリー・レコードが書かれる。各サマリー・レコードは会社のある地区を現わし、次のものを含んでいる。

- (1) 従業員レコードの合計数
- (2) 現役従業員レコードの合計数
- (3) セミ・マンスリーの固定給総合計
- (4) セミ・マンスリーの定控除総合計
- (5) セミ・マンスリーの任意控除合計
- (6) セミ・マンスリーの手取り給与合計
- (7) 年間累積定給与総合計
- (8) 年間累積超勤手当の総合計
- (9) 年間累積控除(減泉税)合計
- (10) 年間累積手取り合計

地区サマリー・レコードをインプット・データに照してチェックする方法は次の通り。

- (1) 地区ごとに従業員の支払総額を合計する。
- (2) 全てのセミ・マンスリーの固定および任意の控除額を合計する。
- (3) 手取額の計算をするために各従業員の賃金総額から全ての控除額を差し引く。
- (4) マスター・レコードの手取額と合計された手取額をつき合わせる。
- (5) もし、合計された手取額がマスター・レコードの手取額と等しければマスター・レコードの手取額を、合計された手取額に加え、この従業員の控除額を加算された控除額に加える。

加算合計は、その地区サマリー・レコードと付き合わせると同時にもしある場合には、その相違を示すためのメッセージをプリントする。

end-of-jof の段階において、地区計の合計を含む追加レコード存在し又、チェックされるだろう。

給与変更のために、各々のバッチのためのサマリー・レコードが作成される。各レコードは次のものを含む。

- (1) グロス・サマリーチェンジ
- (2) トランザクション数
- (3) 日付
- (4) バッチのナンバー

end-of-job の段階において、各々の加算合計が、プリント上の合計および、もしあれば、エラー・メッセージの両方を付けたサマリー・レコードの合計につき合わされる。

超勤インプットのためには、時間の要約合計がバッチで作成される。各レコードには次の項目を含む。

- (1) 合計時間
- (2) 処理件数
- (3) 日付
- (4) バッチのナンバー

バッチの要約レコードは最初のインプット処理中に付き合わされる。しかし地区ごとの要約は磁気テープに記録され、テープが使われる場合には、その都度付き合わされる。

上記の全ての条件において、地区サマリーを訂正する処理は、ある一定の地区サマリーと同一であるとみなすことにしている仮の従業員数を使うことによってとりかかるとことになるかも知れない。

給与システムのためのバック・アップ手続きは次の項目を含む

- (1) 使用後二支払期間にわたって、マスター・テープ・ファイルを保管すること。
- (2) 同期間マスター・テープの更新に使われた全ての変更ファイルを保管すること。
- (3) マンスリード又は変更がある都度、マスターディスク・ファイル

をテープ上にダンプすること。ダンプされたテープはディスク・ロードに適切な方式で構成される。

早まってファイルを取りくずしたり、変更したりした場合のリカバリー手続きは、最も新しいバック・アップ・ファイルが作成されて以後に実施された全ての給与のランの再処理を含む。

## B 選出されたプログラム明細書

(注： 以下に示すプログラム明細書は給与システムを構成する全体のほんの1部である。さらに明細書は真に役立つプログラム明細書のほんの部分的な例である。)

### プログラム仕様書

#### 1. 給与変更プログラム—— 版1

頻 度： セミ・マンスリー・サイクル

インプット： 給与変更—— 磁気テープ

アンフォーマテッド(可変長)

アウトプット： 給与変更—— 磁気テープ、イメージ・リスティングとバッチ・トータル

目 的： この処理目的は給与変更の内容をもつ、可変長の紙テープ・レコードを固定長の磁気テープ・レコードに変換することである。パリティ・エディティングとバランスング手続きが行なわれ、読まれた全てのレコードのイメージ・リスティングが印刷される。

仕 様： 1. バッチの終りで、バッチ・トータルとデータ・トータルを、“ 斉合している否か”、差異、日付およびバッチ版を表示するメッセージを付けてプリントする。

2. プリンター上に読まれた全てのレコードを印刷する。  
左端に連続番号を示す。
3. 各レコードを調べてバリティ・エラーの状態かどうか分析し、プリンターの右端にそのようなエラーを表示する。
4. ブロック数とデータ・フィールドを検討する、アウトプットとテープ上に記録する固定長のフィールドとブロック数を確定すること。
5. インプットテープの終りで、次のような追加フィールドをもつアウトプット・テープに関するダミーレコードを書く。  
 バッチ数、レコード数、給与変更総合計、日付、社会保障番号と変更コード・ロケーション

## 2. バリディティ・チェック処理 — Ⅱ 2

頻 度： セミ・マンスリー

インプット： 給与変更磁気テープ、給与マスター・テープ、州および地方税表のディスク・ファイル、ヘッド・マスター・ディスク・ファイル、変更前テープ、エラー前テープ

アウトプット： 現行変更テープ（エラーが無いもののみ）、現行エラーテープ、変更エラー・リストをプリントしたテープ、社会保障番号とロケーション 変更リコーダー・ディスク（マスター・フォーマット）、End of Job トータル（正しい変更数、エラー数、社会保障番号とロケーション変更数）およびディスク 変更ファイル

目 的： この処理の目的は給与マスター・ファイルになされる変更を確証することである。給与マスター・ファイル、ヘッダ・

マスター・ファイル、州および地方税表ディスク・ファイルはバリディティ・チェックのためのクロス・リファレンスとして使われる。変更データに関する多くの内部チェックがまた、参照ファイルをチェックする前になされる。プログラムはエラー・ループの考え方を使う。その目的は諸変更を給与マスターに統合する前に全てのエラーがシステムから排除されるということを保障することである。

仕 様：

概 様

変更とか、訂正を、前テープおよびマスター・ファイルとマッチングするための基本ルールは次のように要約される。

- a 全ての訂正は給与マスターに照して検証される。
- b 全ての訂正は前エラー・テープ・レコード又は前変更テープ・レコードと付き合せしなければならない。
- c 両前テープ上のどのレコードも“削除(kill)”インプットレコードによって取り除かれるかも知れない。
- d もし、エラー・テープ上のレコードへの訂正が更にエラーがあるならば、元々のエラーだけがエラー・テープ上に維持されることになるだろう。しかし、元々のエラーも、新しいエラーも両方ともアウト・プット・リスト上に現わされるだろう。
- e もし、前変更テープ上のレコードへの訂正がエラーである場合には、前変更レコード中のエラーが統合されることになり、本来のエラー変更はエラー・テープ上に書かれることになる。エラーの訂正はエラー・リストに示されることになる。
- f 前エラー・テープからの全ての未訂正レコードはプリント・テープに記録される。

- g インプット・フィールドが、ハッシュ・トータルに加えられることになれば、数字のフィールドがテストされる。もし全ての文字が数字でないならば、そのフィールドは加えられることにはならないし、数字であればそのフィールドが加えられることになる。

#### 処理のインプット・チェック

- a 社会保障番号とロケーション・コードに関する。トランザクション（給与変更テープ）のインプットのシーケンス・チェック
- b 変更の各タイプを調べ、その変更タイプのための必要十分なデータのブロックが存在するか否か分析すること。
- c 矛盾した変更のタイプが処理されていないことを保障するために、変更タイプのコードの組み合わせを調べること。
- d 数字データだけが存在するということを確認するために各々の数字のフィールドを調べること。
- e 全ての“コード”フィールド（婚姻の有無、性別、職務コード等）を調べ、現行コードがそのフィールドの正当なコードかどうか確認するためにそのフィールドを分析すること。
- f 各ブロックを調べてパリティ・エラーとか、誤った長さのブロックがないかどうか分析すること。

#### 給与マスタに照してのチェック

- a 諸給付の変更を調べること。
- b 新入社員のために次の項目を調べること。
  - (1) ロケーション変更
  - (2) アドレス変更
  - (3) 社会保障番号
- c 社会保障番号の変更を調べること。
- d 他の全ての変更
- e 全ての変更はプリント・ファイルのトレーラー・レコードに現

わさねばならない。

3. エラー・プリント・プログラム— Ⅲ 3

頻 度： セミ・マンスリー

インプット： 変更／エラー・テープ、ヘッダー・マスタ・ディスク・  
ファイル

アウトプット： 変更／エラー・リスティング、パッチおよびエリア・ト  
ータル

目 的： この処理目的は、全てのエラーおよびバリディティ処理  
で発見された、エラーの可能性のあるものをリストする  
こと。

4. 給与マスター 変更プログラム— Ⅲ 4

頻 度： セミ・マンスリー

インプット： 給与マスター・テープ、社会保障番号およびロケーション  
変更テープ、現行変更テープ、税率表ディスク・ファイ  
ル、オフィス・ヘッダー・ディスク・ファイル

アウトプット： 新給与マスタ・テープ、不足支払テープ、諸給与変更、  
変更リスト・プリント・テープ

目 的： この処理の目的は年度累積又は四半期累積計を別として  
給与マスターに全ての変更をすることである。このプロ  
グラムは多くの他の変更とか、更新機能のうち、変更レ  
コード、給与マスター、税率表を使って、ロケーション  
変更とか、給料変更とか、新入社員に対しての連邦政府  
州および地方税を計算すること、地区サマリー合計は、  
前期の地区ごとの給与総合計、変更、今期の合計で維持  
されるだろう。

アウトプット・マスタ・ファイルはシークエンスを（社会保障番号、ロケーションを昇順で）チェックするだろう。

5. 変更のプリント・アウト— № 5

頻 度： セミ・マンスリー

インプット： 変更細目プリント・テープ、ヘッダー・マスタ・ディスク

アウトプット： エリアごとの変更リスト、エリアごとのコントロール・トータル

目 的： この処理の目的は、給与マスタ・ファイルに影響する全ての変更を示すことである。

6. 相殺編集プログラム— № 6

頻 度： セミ・マンスリー・サイクル

インプット： 相殺インプット・テープ、前未払小切手テープ、前相殺テープ（随意選択）、前相殺エラー・テープ（要求があれば2をとばせ）

アウトプット： プルーフ・リスト、年間相殺アウト・プット・テープ、相殺エラー・テープ（もし必要なら）

目 的： この処理の目的は、前小切手テープ（未払い小切手・テープ）に照して処理さるべき相殺記入項目を作成することである。この処理は本部の支払処理と無効小切手処理を含む。

7. 相殺再構成プログラム— № 7

頻 度： セミ・マンスリー

インプット： 無効になった通常小切手、および前期発行の無効になった本部支払高、今期発行の無効になった支払高、本部支払高および週ごとの給料額

アウトプット： 構成済相殺テープ、バッチトータル

目的： このプログラムの目的はテープ（磁気）上に無効および本部活動を再構成し、明細データを添付されたコントロール・データと付き合わせることである。

#### 8. 超勤明細の再構成 — Ⅱ 8

頻 度： セミ・マンスリー

インプット： 超勤明細 — インプット（可変長）

アウトプット： 超勤明細 — 再構成テープ（磁気）

目的： この処理の目的は超勤データ（フォーマットされないもの）を磁気テープの固定化されたフォーマットに変換し、時間のバッチ・トータルを作成し、表示することである。

#### 9. オーバータイムレイトとブルーフ — Ⅱ 9

頻 度： セミ・マンスリー

インプット： 給与マスター・テープ、超勤時間明細テープ、前超勤時間明細（パス2）、前超勤時間エラー（パス2）

アウトプット： 超勤時間明細テープ（有効項目）、ブルーフ・リスト明細ファイル、超勤時間明細エラー、特別超勤時間のもの

目的： このプログラムの目的は次のやり方で超勤時間を処理することである。

1. インフォメーションを確証すること。

2. ブリーフ・リストの明細を作成し。
3. 訂正行動をするためエラー・レコードを選び出すこと。

このプログラムは支払期間の何れか1つの間での重複パスのために処理する。

#### 10. 超勤時間ブリーフ・リスト — №10

頻 度： セミ・マンスリー

インプット： 超勤時間ブリーフ明細、ヘッダー・マスター・ディスク

アウトプット： 超勤時間ブリーフ・リスト

目 的： この処理の目的は、給与部が検証用に使うために小売店ごとに超勤時間のトランザクションのブリーフ・リストを提供すること、小売店ごとに、最終合計として、時間通り、1倍半、2倍の合計時間をプリントする。

#### 11. 給与マスターの金額更新、支払処理 — №11

頻 度： セミ・マンスリー

インプット： 給与マスター・テープ、不定支払、年間累積相殺テープ、  
超過時間明細テープ、特別超勤時間だけのもの

アウトプット： 給与マスター・テープ、セミ・マンスリーの支払テープ、  
地区ごとのコントロール・トータル

目 的： この処理の目的は給与マスターの適切なフィールドを更新し、小切手、給与記録、種々の報告書を作成するためのデータを提供することである。

この処理は給与マスターに他のインプット・ファイルの1つか、2つか、3つの何かの他のインプット・ファイルを選択出来る。他の諸機能中、このプログラムは

1. 州および地方税に対しては、従業員マスター・レコード中の税率を使い、連邦政府税に対しては20%を使って不足支払および超勤支払に関する所得税を計算すること。
2. 無効、週間、本部支払額の各レコードにより年間累計の数字を調整すること。
3. 年間累計連邦税率賃金のフィールド—F I O A を分析し、最大のF I O A 控除額を調べる。同じやり方が州税に対しても行なわれる。
4. 年間累計、期間累計、税フィールドを、超勤時間、特別超勤時間だけの不足および相殺のインプットを使って合計すること。
5. セミ・マンスリー支払テープを書くこと。
6. 全ての金額フィールドのサマリー（総計および全ての控除額）を含む、コントロール・トータルをディスク上又はコア内で地区ごとに合計すること。end of jobの段階で合計をプリント・アウトし、新合計をアウト・プット・マスターに記録すること。

12. 小切手をプリントし、小切手テープを作成すること — № 1 2

頻 度： セミ・マンスリー

インプット： セミ・マンスリーの支払いテープ、ヘッダー・マスター・ディスク・ファイル、事務所/小売店パラメーター・カード、前未払小切手テープ

アウトプット： 小切手および支払総額明細書セミ・マンスリー・小切手テープ、コントロール・トータル（明細リスト）、未払い小切手テープ

目 的： この処理の目的は従業員の小切手の支給総額明細書を印刷し、小切手帳および日付けつき支払いテープから日付けを入れた小切手テープを作成すること。小切手テープは給与記録をプリントし、未払い小切手テープを更新するのに使われる。

### 13. 給与記録をプリントすること — 表 13

頻 度： セミ・マンスリー

インプット： 小切手テープ・ヘッダー・マスタ・ファイル

アウトプット： 給与記録、コントロール・トータル

目 的： この処理の目的は全ての金額フィールドのコントロール・トータルを含む、3つの給与記録をプリントすることである。

### 14. 月額給与 — 表 14

頻 度： マンスリー

インプット： 明細別マンスリー小切手、レポート・パラメーターのディスク・ファイル、ヘッダー・マスター・ディスク・ファイル

アウトプット： 小売サマリー・ファイル、マンスリー・レポート・テープ

目 的： この処理の目的は、次のようなマンスリー・レポートに含まれることになる明細を選出し、作成すること。

1. 給与クリアランス
2. 支給総額明細書
3. 超勤時間報告
4. 特別地方および州税状況
5. 給与貯蓄計画（公社債証券）控除

6. 公社債証券リスト
7. 公社債証券購入表
8. 公社債証券償還表
9. 公社債証券の取り消し表
10. 小切手の詳細リスト
11. 手で作成した小切手の記録
12. 無効になった小切手の記録

15. 給与クリアランスおよび報告 — № 15

頻 度： マンスリー

インプット： 小売サマリー・ディスク・ファイル、ヘッド・マスター  
・ディスク・ファイル、レポート・フォーマット・パラ  
メーター

アウトプット： 小売サマリー・テープ、給与クリアランス・レポート、  
地域ごと支給総額サマリー

目 的： この処理の目的は必要なマンスリー・サマリー・レポー  
トを選択的にプリントすること。

16. レポート・ゼネレーター — № 16

頻 度： マンスリー

インプット： マンスリー・レポート・テープ、ヘッダー・ディスク・  
ファイル、レポート・フォーマット・パラメーター

アウトプット： 公社債証券リスト、— 完全な、公社債証券控除、公社  
債証券購入、公社債証券償還、公社債証券の取り消し、  
超勤時間各レポートおよび特別地方および州税状況

目 的： この処理の目的は選択的、又は連続的なベースでマンス  
リー・レポートを作成することである。

17. 小切手の調整 — Ⅱ 17

頻 度： マンスリー

インプット： 前月末払小切手テープ、マンスリー小切手明細テープ、  
支払済小切手テープ、調整エラー訂正カード

アウトプット： 未払い小切手テープ、調整エラーカード、明細小切手リ  
スト

目 的： この処理の目的は、更新された未払い小切手テープとど  
んなエラー状況をも抽出するためにその月のための前未  
払小切手明細および新小切手明細を処理することである。

18. 相殺、小切手記録 — Ⅱ 18

頻 度： マンスリー

インプット： 当月 15 日の相殺テープ、当月 30 日の相殺テープ、近  
至の相殺テープ、ヘッダー・マスター・ディスク・ファ  
イル

アウトプット： マンスリーの無効小切手、本部支払額小切手記録

目 的： この処理の目的はマンスリーの相殺（本部支払額、無効  
およびウィークリー）を小切手控リスト（小切手一連番  
号）のために処理することである。

19. クォータリー・明細処理 — Ⅱ 19

頻 度： クォータリー

インプット： 給与マスター・テープ、レポート・パラメーターのディ  
スク・ファイル、ヘッダー・マスター・ファイル

アウトプット： 941A テープ；クォータリー・レポート；小売店ごと、  
地域ごと、訂正プリント・アウトごと支給総額サマリー  
固定給りポート・プリント・アウト

目的： この処理の目的は支給総額サマリーをプリントし、コントロール・トータルを提供することである。オプション・コントロールの下でのこの処理の副産物は、941Aテープ、クォータリー・レポート・テープおよび固定給レポートのプリントアウトになるだろう。

## 20. 概様四半期プリント — 表 20

頻 度： クォータリー

インプット： クォータリー・レポート・テープ、ヘッダー・マスター・ディスク・ファイル、レポート・フォーマット・パラメター・ディスク・ファイル

アウトプット： 抽出された州、連邦政府／州の非課税賃金、州税、特別情報レポートのための941Aのプリントアウト

目的： この処理の目的はレポート・フォーマット・パラメターに基づいて、あるクォータリー・レポートをプリントすることである。

## 21. セミ・アニュアル明細の抽出 — 表 21

頻 度： セミ・アニュアル

インプット： 給与マスター・テープ、レポート・パラメター、ディスク・ファイル

アウトプット： セミ・アニュアル・レポート・テープ、小売店プリントごとのコントロール トータル

目的： この処理の目的は、セミ・アニュアル・レポートのためのレポーター・データを適当に選択し、地区ごとにマスター給与ファイルをバランスすることである。

22. セミ・アニュアル・レポートをプリントすること— Ⅱ 2 2

頻 度： セミ・アニュアル

インプット： セミ・アニュアル・レポート・テープ、ヘッダー・マスター・ディスク、レポート・フォーマット・パラメーター・ディスク

アウトプット： 氏名および住所リスト、特別州サマリー、従業員の公社債証券計算

目 的： この処理の目的は、以下のセミ・アニュアル・レポートをプリントすることである。

氏名および住所リスト

特別州サマリー

従業員公社債証券計算

23. 年度末明細選出— Ⅱ 2 3

頻 度： 年

インプット： 給与マスター・ファイル、レポート・パラメーター・ディスク・ファイル

アウトプット： アニュアル・レポート・テープ、州ごとの従業員計算

目 的： この処理の目的は、オペレーションにより必要な特別税フォームの数を確定するために、州ごとの従業員の計算をすることである。レポート・テープも又作られる。

24. 年度末レポートのプリント— Ⅱ 2 4

頻 度： 年度末レポート・テープ、ヘッダー・マスター・ディスク・ファイル、レポート・フォーマット・パラメーター

アウトプット： 連邦政府および州のW-2フォーム、給与リスト、従業員支給総額明細書および計算

目 的： この処理の目的は、要求に応じて、レポート・フォーマット・パラメータごとにアニュアル・レポートをリストすることである。このレポートは次のようなものである。

連邦政府 W-2

州 政 府 W-2

給与リスト

従業員計算

支給総額明細書

## 25. 給与マスターの作成 — № 2 5

頻 度： 必要の都度

インプット： オプション明細書カード、給与マスター・テープ、税表ディスク・ファイル、ヘッダー・マスター・ディスク・ファイル

アウトプット： 給与マスター・テープ、明細従業員リスト、コントロール・トータル

目 的： この処理の目的は、年度始め用の新従業員マスター・テープを作成し、税表が改正された時、新しい税引率を選択し、適用することである。

## 26. 社会保障およびロケーション変更テープ・プログラム — № 2 6

インプット： 給与マスター・テープ、現行変更テープ、税表ディスク・ファイル

アウトプット： 社会保障番号およびロケーション変更テープ

目 的： この処理の目的は、給与マスター・テープおよび現行変更テープから社会保障番号およびロケーション変更テープを作成することである。アウトプット・テープは社会

保障番号およびロケーションごとに分類され、給与マスター変更処理(プログラム№4)へのインプットとして提出される。

## 27. 本部支払額の確認 — №27

頻 度： セミ・マンスリー・サイクル

インプット： 給与マスター・テープの相殺

アウトプット： 相殺テープ

目 的： この処理の目的は給与マスター・ファイルに照して本部支払額をチェックすることである。発見されたエラーは印をつけ、相殺監査テープに送られる。エラーがないものも送られる。

11

11

請求 番号	経 46-28 7	登録 番号	
著者名			
書名	プロジェクト管理の手法(II) - 渡米システム: プロセス研修用テキスト -		
所属	帯出者氏名	貸出日	返却 予定日
			返却日

禁無断転載・使用

昭和46年6月

財団法人 日本経営情報開発協会

東京都千代田区霞が関3-2-5

霞が関ビル

TEL (581) 6401 (代表)